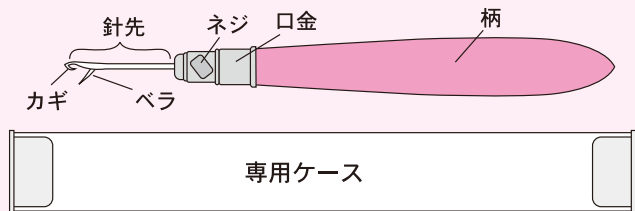


ビーズクチュール

ビーズクチュールニードル



<準備>

はじめる前に用意するもの

- 【 枠 】 クロバー「ターンフープ(18cm)」もしくは、両手が自由に使えるスタンド式の刺しゅう枠。
- 【 糸 】 ミシン糸など(右記 **上手に使うヒント** を参照)。
- 【 生地 】 最初はオーガンジーなど透ける素材で練習することをおすすめします。「ターンフープ(18cm)」に張ることができるのは25×25cm以上のサイズです。
- 【 ビーズやスパンコール 】 糸に通ればどのようなビーズでも使用できます。あらかじめ糸に通しておきます。
- 【 糸にビーズを通す用具 】 ビーズが通る太さの針または、クロバー「フリーステッチングスレダー」。
- 【 図案を写す用具 】 クロバー「水性チャコペン」または、「クロバーチャコピー」、トレーサー、セロファン紙、待針、トレーシングペーパー。
- 【 その他 】 糸切はさみ、糸立て。

図案を写します

● オーガンジーなどの透ける素材には…

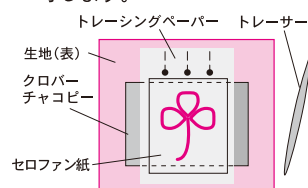
・ 実物大図案の上に生地を重ねて直接写します。
”自然に消える”または”水で消える”クロバーの「水性チャコペン」で描くと便利です。

<あると便利な道具>

クロバー「水性チャコペン」

● 透けていない素材には…

- ① 実物大の図案をトレーシングペーパーに写します。
- ② 生地の上に図を写したトレーシングペーパーをのせ、待針で止めます。
- ③ 「クロバーチャコピー片面」を転写面を下にして生地とトレーシングペーパーの間にはさみます。
- ④ 上にセロファン紙を重ね、クロバー「トレーサー」で図案を写します。



<あると便利な道具>

「クロバーチャコピー片面」
「トレーサー」(手芸用鉄筆)
トレーシングペーパー
セロファン紙
待針

枠に生地を張ります

クロバー
「ターンフープ(18cm)」



生地の張りが弱いとステッチがきれいに刺せません。
ピンとしっかり張ります。

クロバー株式会社

針先のセット方法



Q：適した糸は？

A：25番刺しゅう糸3本取り程度までの太さで、張ります。スパンコールやビーズを刺す時は、ミシメします。(別売のクロバー「ビーズクチュールチェーンステッチ」を刺す時には、25番刺しゅう取り程度までの太さの糸をお使い下さい。

Q：適さない糸は？

A：25番刺しゅう糸の場合、1本取りでは、糸の強で使えないで下さい。また テグスなど腰のカギからはずれやすいので使えません。

Q：適した生地は？

A：最初は手の動きが見える、オーガンジーなど透めします。目の詰まっていない柔らかい、薄手ム、ジャガード、ツイードなど)ならほとんど※種類によって適さない場合があります。

Q：適さない生地は？

A：目の詰まったかたい生地(ブロードや厚手のデ針先を傷めるおそれがあります。また、Tシャツのおそれがあります。

Q：適さない生地や枠に張れない既製品

A：オーガンジーなどに刺しゅうしたものをアップ後、ひとまわり大きく生地をカットし、生地

Q：使用する刺しゅう枠は？

A：両手を使う刺しゅうなので、枠を固定する必要クランプやくけ台で机に固定して使うこととなり、生地の裏面を容易に確認できません。別c m>」は机に固定でき、手で360度回転す。他にスタンド式の刺しゅう枠があれば使用

クロバーの「刺しゅう枠」と「机上くけ台」の場合



枠とくけ台の間に布をあてます。

Q：刺す時のポイントは？(裏面ラインス

- A： ●ステッチしている時に、糸がはずれないようにステッチの進行方向にベラの先が向くようにかはずれずに刺しゅうができます(裏面 **ポイント1**)。軽く引いておきます(裏面 **ポイント3**)。
- カギが生地に引っかかった時は…作業を中断し、カギを生地からはずします。ると引っかかりません(裏面 **ポイント2**)。
- カギが前のステッチのループに引っかかった作業を中断し、カギをループからはずしますながら刺すと引っかかりません(裏面 **ポイント4**)。

<使用上の注意> ・ 針先は尖っていますので、取扱い

<保管上の注意> ・ 保管の際は、ケースに入れてお
・ 使用後は、針先を乾いた布で軽く

ビーズクチュールニードルを上手に使うヒント

程度までの太さで、強度があり、しなやかな糸なら使えます。刺す時は、ミシン糸50～60番程度の糸をおすすめ（「ビーズクチュール糸」もあります）。時には、25番刺しゅう糸3本取り、5番刺しゅう糸1本をお使い下さい。

1本取りでは、糸の強度が足りず切れるおそれがあるの。また、テグスなど腰の強い弾力性のある糸は、刺す時に使えません。

オーガンジーなど透ける素材で練習することをおすすめ。柔らかい、薄手の生地（シーチング、薄手のデニムなど）ならほとんどの生地に刺せます。易合があります。

（ブロードや厚手のデニム、帆布など）に無理に刺すと切れます。また、Tシャツなどのニット地は、生地が切れ

伸びない既製品に刺しゅうしたい時は？

刺しゅうしたものをアップリケするなどして下さい。刺しゅうした生地をカットし、生地端を折り返して縫い止めます。

枠は？

で、枠を固定する必要があります。普通の刺しゅう枠を固定して使うこともできますが、刺せるスペースが狭く確認できません。別売のクロバー「ターンフープ<18cm>」を手元で360度回転するのでビーズクチュールに最適で刺しゅう枠があれば使用できます。

「くけ台」の場合



をあてます。

クロバー「ターンフープ<18cm>」



ビーズクチュールに最適です。

ポイント？（裏面ラインステッチ 上手に刺すコツ）を参照

糸がはずれないようにするには・・・
ペラの先が向くように方向を合わせて刺していくと、糸がでます（裏面 **ポイント1**）。糸がたるまない程度に（裏面 **ポイント3**）。

刺した時は・・・
生地からはずします。針先を十分に刺してペラを出し切り（裏面 **ポイント2**）。

ループに引っかかった時は・・・
ループからはずします。糸がたるまない程度に軽く引き取りません（裏面 **ポイント3**）。

- ペラが生地に刺さった時は・・・
作業を中断し、丁寧にペラを生地からはずして、再度刺し直して下さい。
無理に力を入れて、押し込んだり、引き抜いたりしないで下さい。破損の原因となります。

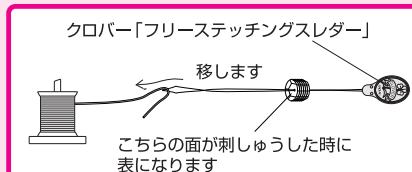
Q：チェーンステッチをきれいに刺すには？

A：ステッチ幅よりも少し長めにループをふんわり引き出すようにして、糸を強く引きすぎないように注意します。糸を強く引きすぎたり、糸が太すぎると生地に引っかかり、うまくステッチできない場合もあります。糸を替える、ステッチの幅を変えるなど試して下さい。

Q：スパンコールやビーズ（バラの状態のもの）をたくさん刺したい時は？

A：スパンコールやビーズ（パーツ）は、ミシン糸などを通してから使います。針もしくは、別売のクロバー「フリーステッチングスレーダー」を使って糸に通します。「フリーステッチングスレーダー」は、先端が丸いので安全に作業でき、パーツを通す線の部分が長いのでたくさんのパーツを通す時に、とても便利です。

- ① 手のひらにスパンコールをのせ、向きを合わせて何枚か重ね、スレーダーに通します。
- ② スレーダーの先端に糸を通します。
- ③ スレーダーに通っているスパンコールを糸に移します。

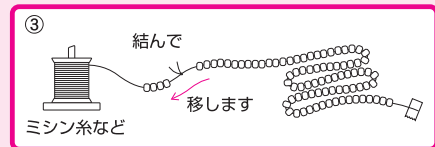
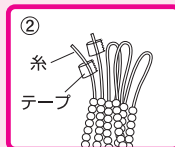
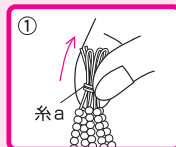


Q：ビーズをたくさん刺したい時は？

A：糸通し済みのビーズを使うと便利です。ビーズに通してある糸は弱いので、ミシン糸などに移し替えてから刺しゅうをします。

<糸通しビーズを移し替える方法>

- ① 糸を束ねている糸aを外します。（糸aを軽くつまんでゆっくり抜き取る）
- ② ビーズが抜けないように糸の先にテープを貼り、丁寧に束をほぐします。（無理に糸を引かずに、束の糸を1本ずつほぐします）
- ③ ミシン糸などにビーズを移します。



※からまないようにほぐします。

Q：スパンコールに裏表はありますか？

A：亀甲タイプは凹側が表になります。デザインによって凸側を表にして刺してもかまいません。

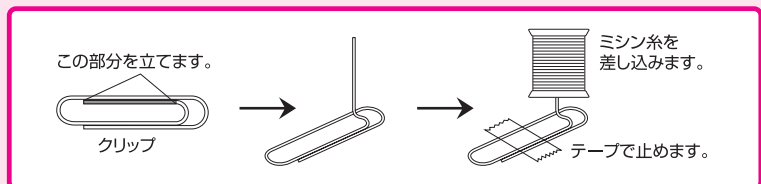
Q：あると便利なものは？

A：クロバー「糸切リング」（別売品）
両手にニードルと糸を持ったまま、糸を切ることができ、ハサミに持ち替える手間がなく作業がはかどります。



クロバー「糸切リング」

A：糸立て
糸が転がり、絡まるのを防ぎます。クリップでも代用できます。



ていますので、取扱いにご注意下さい。

ケースに入れてお子様の手の届かない所に保管下さい。
針先を乾いた布で軽く拭き、湿度の高い所での保管は避け下さい。（錆びの原因となります）

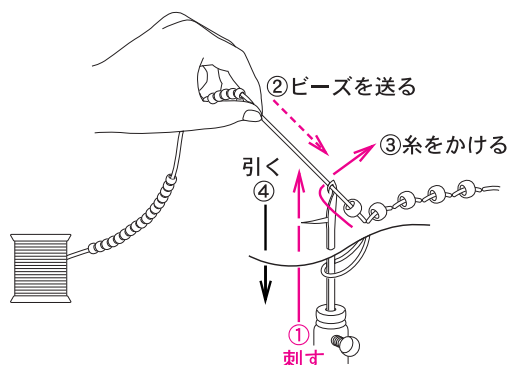
クロバー株式会社
〒537-0025 大阪市東成区中道3-15-5
「お客様係」TEL (06) 6978-2277

070405

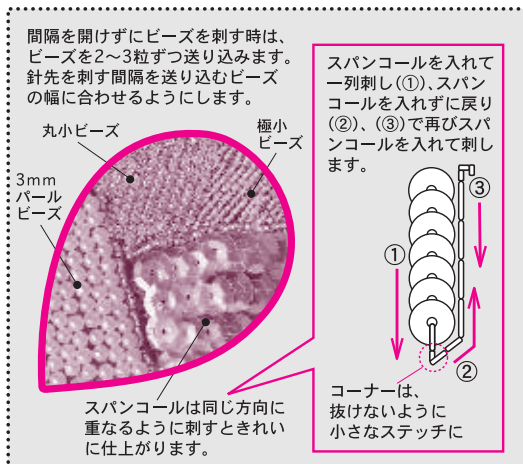
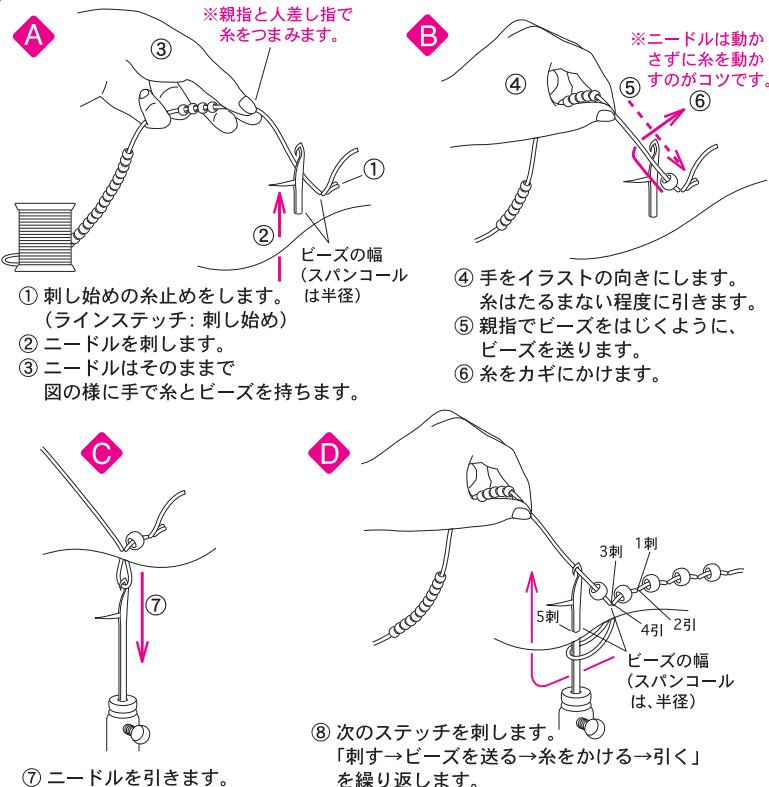
ビーズステッチ ビーズやスパンコールを取付けてみましょう！

※ビーズを通した糸を用意します。

「刺す→ビーズを送る→糸をかける→引く」を繰り返します。



※ラインステッチにビーズを送る作業が加わります。
最初は大きめのビーズ(丸大ビーズなど)で練習しましょう。スパンコールは、扱いやすい亀甲タイプで練習してから、フラットタイプにステップUPすると良いでしょう。



チェーンステッチ チェーンステッチを刺してみよう！

ニードルは生地の上から下に
刺します。

※ラインステッチの裏面がチェーンステッチになります。(チェーンステッチの作品をつくるには、
生地の裏面に図案を(逆に)写し、ラインステッチで刺す方法もあります。)

